



天文台だより

銀河の森天文台
2024 冬号
Vol.102

12/1の夜、低緯度オーロラ大出現！



2023年12月1日20時29分撮影

2023年12月1日夜、北海道で低緯度オーロラが大出現し、道内各地で観測されました。この日の陸別は快晴で、銀河の森天文台でも観測することができました。天文台では11月6日以来約1か月ぶりの観測でした。

低緯度オーロラは、20時20分頃に北の低い空に淡く赤く現れ、その後急激に明るくなって左の写真のような縦線がわかるようになりました。低緯度オーロラの縦線構造が撮影できたのは今回が初めてです。

開館中の出来事だったので、当館「X」の低緯度オーロラ出現のポストを見た陸別町民の方がカメラを持って来館し、低緯度オーロラが撮影できると喜びの声を上げていました。その後、低緯度オーロラは一旦暗くなったのですが、天文台閉館後の22時過ぎにまた明るくなり、その場にいた天文台職員4名とも肉眼でも低緯度オーロラの赤い光を確認することができました。肉眼で低緯度オーロラの明るさが分かったのは2003年10月以来約20年ぶりになります。天文台HPでは今回観測した低緯度オーロラの動画も公開しています。ぜひ、HPをご覧ください。

「館長コラム」～冬～

今年も冬がやってきました。陸別では、年間を通じてもっとも寒い時期になるので家に閉じこもりになりがちですが、天体観測をするには夜が長くて晴れ間も多い季節になります。この時期ならではの星座もありますので、暖かい恰好をして星を楽しんでほしいです。

冬の天の川にも見どころがたくさんあります。ぎょしゃ座の散開星団からオリオン座の大星雲、おおいぬ座のシリウスから近くの星団、となりのとも座にあるM46のなかにあるNGC2438という惑星状星雲がたくさんダイヤモンドの中に小さなリングがあるように見えてきれいです。おうし座のかに星雲、ふたご座にあるエスキモー星雲も見逃さない。

リゲルの二重星やシリウスの伴星も見えてほしいもののひとつです。ただ星のキラキラした夜には、望遠鏡で拡大するとボヤボヤゆらゆらするのでよく見えないかもしれません。星がボヤッと見える日は、かえってよく見えるものです。そんな日に挑戦してみてください。

ほかにも見どころのある星座がたくさんありますので、ぜひご来館ください。外は寒いですが1階の展示室は暖かいので、ときどき下に降りて暖をとりながら楽しんでほしいと思います。



館長
津田浩之(双子座)

11/25、「驚き！おもしろ科学実験2023」を開催しました！！

11月25日(土)に「驚き！おもしろ科学実験2023」を開催しました。4年ぶりの開催でしたが、たくさんの子供たちが来館し、館内は大盛況でした。このイベントは、当館と名古屋大学宇宙地球環境研究所、北見工業大学社会連携推進センター、足寄動物化石博物館との共催になります。



冬のイベント情報！！

☆冬の大きな三角と天体観望会

冬の星座の天体が見ごろになりました。オリオン大星雲は双眼鏡や望遠鏡でじっくり楽しめます。また、おおいぬ座シリウスの伴星シリウスBを観察するチャンスです。ぜひ、ご来館ください。

開催日：1月31日(水)～2月11日(日)

説明会：午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆2023年度銀河の森天文台写真展

銀河の森天文台で撮影した最近1年の写真を展示します。合わせて、皆様が最近1年で撮影された天体写真を公募し展示します。詳しい応募方法は天文台HPをご覧ください。

募集期間：2024年1月4日(木)～2月29日(木)

展示期間：2024年3月8日(金)～24日(日)

暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:53	16:03	19.1	21:00	10:12
1月15日	6:51	16:17	3.6	9:26	20:51
2月 1日	6:38	16:39	20.6	22:58	9:27
2月15日	6:21	16:58	5.2	8:57	23:40
3月 1日	5:58	17:17	20.2	23:00	8:11
3月15日	5:34	17:35	4.7	7:54	23:55

天文行事&暦

1月

- 12/28-1/3 天文台休館日
- 4 しぶんぎ座流星群が極大 (PM6時 最大20個/時)
- 6 小寒(24節気:太陽黄経285°)
- 11 ●新月
- 12 水星が西方最大離角 (光度:-0.2等, 離角:23.5°)
- 20 大寒(24節気:太陽黄経300°)
- 26 ○満月

2月

- 1/31-2/11 冬の大三角と天体観望会
- 4 立春(24節気:太陽黄経315°)
- 10 ●新月
- 19 雨水(24節気:太陽黄経330°)
- 24 ○満月

3月

- 5 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
- 8-24 2023年度銀河の森天文台写真展
- 10 ●新月
- 20 春分(24節気:太陽黄経0°)
- 25 水星が東方最大離角 (光度:-0.1等, 離角:18.7°)
- 満月

2024年太陽系天体みどころカレンダー

★黒線期間が見頃の時期、点線期間は短時間ですが見える時期になります

○:満月 ●:新月

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
太陽	●11 ○26	●10 ○24	●10 ○25	●9 ○24	●8 ○23	●6 ○22	●6 ○21	●4 ○20	●3 ○18	●3 ○17	●1 ○16	●1,31 ○15
水星												
金星												
火星												
木星												
土星												
天王星												
海王星												

2024年の天文台開館中に太陽系の天体たちが見頃となる時期をカレンダーにまとめました。

今年の中秋の名月は9月17日です。今年の水星は短い見頃が2回訪れ、開館直後から日没頃までが観察できるチャンスとなります。金星は6月4日の外合の後に「宵の明星」となり、7月末から天文台で観察しやすくなります。

天王星と木星は春先に1度見頃が終わり、それぞれ11月中旬と12月上旬からまた次の見頃が始まります。9月中旬からは土星、下旬からは海王星が見頃を迎えます。また、火星は2025年1月12日の最接近に向けて段々と昇る時間が早く、明るくなるため、12月中旬から観察できるようになります。

望遠鏡で、肉眼で、今年もたくさん空を見上げましょう。みなさまのご来館をお待ちしています！

天文台からのお知らせ

☆ 12月28日(木)~1月3日(水)の期間は、天文台休館日となります。

ペッコカめぐり「スマホでも撮れたぞ!低緯度オーロラ」

12/1に出現した低緯度オーロラは、予想を超えて肉眼でも空が赤く見えるほどに明るいものとなりました。一眼レフカメラで撮影された低緯度オーロラの画像を見ているうちに、「これだけ明るいオーロラが出ているならば、スマートフォンでも写るのでは?」と思い、試しに撮ってみることにしました。天文台屋上の手すりを手振れを抑えながら北の空を撮影してみると...おおお!低緯度オーロラが写っているじゃないですか!オーロラ自体の明るさもありますが、

どんどん進化していくスマートフォンの性能にも驚かされます。ここ数年間はまだまだオーロラ撮影のチャンスがあると思われます。「低緯度オーロラ出現中!」といった情報が出ている際には、スマートフォンでの低緯度オーロラの撮影に挑戦してみたいはいかがでしょうか? (中)



プラネタリウム情報!!

プラネタリウムは、開館日の土・日・祝日のみの上映になります。
定員:10名(入館者先着順、受付にて整理券を配布)
上映時間:午後3時、4時、5時(開館日の土・日・祝日のみ)
上映番組:「今夜の星空」(各回約10分)

発行・編集:りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL:0156-27-8100

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp X(旧Twitter): @ginganomori_obs

